

[概要]

学校法人白峰学園は2019年5月30日(木)に開催した理事会、評議員会で2018年度(平成30年度)決算を承認しました。学校法人会計の計算書類(資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表)は、私立学校法と学校法人会計基準に定められた規則に基づき作成されています。概要は以下の通りです。

【資金収支計算書】

資金繰りの状態を表すもので、平成30年度内の全ての資金の流れを表示しています。収入の部は学生生徒等納付金収入3億2,079万7,000円、手数料収入320万6,000円、補助金収入8,450万6,000円、前受金収入1億1,142万2,000円など合計で8億75万5,000円です。支出の部は人件費4億1,351万円、教育研究経費1億2,529万6,000円、管理経費8,425万4,000円などで翌年度繰越支払資金を含め合計で8億75万5,000円となります。

【事業活動収支計算書】

平成30年度の収入と支出の均衡状況を示し、当法人の経営状態を表す計算書で、教育活動収支と教育活動外収支を合わせた経常収支および特別収支で構成されています。

教育活動収入は、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入、雑収入で合計4億5,820万1,000円。一方、教育活動支出は人件費、教育研究経費、管理経費などで合計7億1,644万5,000円。教育活動収支差額は2億5,824万4,000円の支出超過となります。

教育活動外収入の受取利息・配当金収入1,793万9,000円を含めた経常収支差額は2億4,030万5,000円の支出超過。特別支出の資産処分差額を含め基本金組入前当年度収支差額(事業活動収支差額)は2億4,081万9,000円の支出超過となります。予算編成時の見込み比べ、諸経費節減努力により支出超過額は若干縮小しましたが、短期大学部門の学生数と入学志願者数の減少を受け、学生生徒等納付金や前受金などの減収幅が大きかったことが響きました。

教育の向上を目的とした資産の取得や大規模補修工事のために必要な費用の総額である基本金組入額は3,931万6,000円。これにより基本金組入後の当年度収支差額は2億8,013万5,000円の支出超過となります。

平成30年度は、基本金組入額3,931万6,000円を施設整備、教育研究機器備品や図書館図書の購入などに充てました。

【貸借対照表】

貸借対照表は、平成30年度末における当法人の財政状態を示す計算書で、資産の部、負債の部、純資産の部により構成されています。有形固定資産の土地、建物、構築物、機器備品などについては、取得価額から減価償却累計額等を控除した金額で計算しています。資産の部合計は49億5,305万4,000円です。固定負債の退職給与引当金、流動負債の未払金、前受金など負債の部合計は1億5,331万6,000円です。基本金と繰越収支差額で構成される純資産の部合計は47億9,973万8,000円となります。

[今後の取り組み]

少子高齢化に伴う18歳人口の減少と女子の四年制大学志向、専門学校との競合などの構造的な問題を受け、短期大学は全国的に志願者を減らす傾向にあります。本学園が設置する横浜女子短期大学も3年連続で入学者は定員を大きく割り込み、学生数の減少により厳しい財務状況を余儀なくされています。そうした中で学園財務の改善に向け大きな要素を占める短期大学部門の学生生徒等納付金収入の増加を図るため、入学生募集活動は最重要課題として引き続き粘り強く推進します。併せて教学面では原点回帰し、本学の設立目的であり社会的使命とも言える保育者養成に全力を傾けていく方針です。小規模短大で少人数教育を行う本学の特長を生かし、一人一人の学生に対するきめ細かな指導・対応をさらに充実させ、保育の専門家を育成する短期大学としての評価が以前にも増して高まるよう教職員一体となり努力を重ねて参ります。